



健康と福祉の祭典 最後の開催

健康福祉まつり

第10回健康福祉まつりは、7月20日、いいたてホーム前庭といちばん館、陽だまりの家を会場に行われ、夏休みに入ったばかりの子供たちやお年寄り、家族連れなどで賑わいました。

健康福祉まつりは、健康増進と福祉の向上を目的に行われてきましたが、今回10回目を迎えた当初の目的を達成したことで、今回が最後の開催となりました。

この日は福祉バザーや血圧測定など数々の催し物が行われたほか、老人クラブ対抗大玉ころがし大会も行われ、最後となる健康と福祉の祭典を楽しんでいました。



ミニデイサービス活動紹介

長泥地区ミニデイサービス

今年度の長泥地区のミニデイサービス担当は、井上公子さん、佐藤美代さん、菅野清子さんの3人の方。食事づくりをはじめ、年間を通じた事業運営を行っています。

同事業は今年で4年目

になりますが、毎年、事業内容は趣向が凝らされ、しめ縄づくり、彼岸花づくりなど、男性の力を必要とするものから、育成会との交流など世代間交流の機会もあります。

今年は、他地区のミニ



デイ参加者と交流したいとの声があがり、9月にやすらぎを利用して、大倉地区と合同でミニデイサービスを実施する予定です。

▶老人クラブ対抗
大玉ころがし



▶体脂肪測定



▲福祉バザーは大にぎわい

▶ジャンケン大会のようす



◀好評だった障害者作品展

食事はおいしく、バランスよく

子供たちが料理教室

夏のこども料理教室は7月22日、いちばん館で行われ、子供23人と保護者2人が夏野菜を使ったドライカレーやスープ、フルーツポンチなどの作り方を学びました。

村食生活改善推進委員会主催のこの事業は、小児生活習慣病予防対策の一環として、子供たちにバランスの良い食事につ



▲楽しそうに料理する子供たち

いて考えてもらおうと行われたものです。

教室では、同委員会長の市澤美由紀さん（深谷）はじめ4人の食生活改善推進委員の皆さんが料理の指導にあたりました。

料理は4班にわかれて行われ、子供たちは小さな手で器用に卵を割ったり、フルーツポンチに入れる果物を型抜きしたりして、楽しそうに料理を作っていました。

料理完成後の試食では、子供たちは自分たちの作った料理をおいしそうに食べ、中には、「ピーマンやナスは、いつもは食べられないけれど、今日は食べられた」と話す子供もおり、今回の教室が、食べ物の好き嫌い解消にも役立っていました。